

精神科外来、精神科入院患者、ナーシングホーム利用者、受刑者、ホームレス、ひきこもり、ニートなど
日本、米国、英国の比較
 メンタルケア協議会作成

	日本	米国	英国	(出典)
人口 2016	12,775万	32,218万	6,579万	国連
精神科外来受診件数(年間) 2015	6,700万件	6,332万件	不明	日本 630調査 米国 CDC
人口10万人当たり 精神科外来実患者数2011	2106.38	931.86	2340.24	WHO Mental Health Resources 2011
人口10万当たり 精神病床数(急性期) 2014	26	21	46	OECD
人口10万当たり 精神病床数(慢性期) 2014	198.6	ごく少数	ごく少数	日本 630調査
人口10万当たり 入院患者数 2011	286.63	736.67	427.91	OECD
平均在院日数 (急性期病棟) 日本2012、米英2014	54.4~79.7日	7.2日	38.9	OECD
人口10万当たりの精神障害者 ナーシングホーム	12 (2013)	321 (2004)	71 (1999)	日本 厚労省検討会資料 米国 CDC 英国 佐々木一先生リポート
人口10万当たり 受刑者数 2017	45	666 (精神障害を持つ者 135)	146 (1年以内に半数近くが再 犯)	OECD
15~29歳人口に 占めるニートの割合 日本2014、米英2016	9.82	14.12	13.19	OECD
外来通院以外は社会参加せず ニート状態にある人	約320	?	?	日本 日精診平成19年&平成26年
相対的貧困率 2014	14.5	15.7	9.7	OECD
人口10万当たり ホームレス 2015	5.2	177	381	OECD
自殺率 2015	19.7	14.3	8.5	WHO

●精神科外来

日本は精神科外来患者数(実数)も多く、延べ受診件数も多い。米国は外来患者数(実数も、延べ受診件数も少ない。英国の外来患者数は日本とほぼ同じ。

●精神科病院

急性期病床数は、日本は米国とほぼ同じ。英国は多い。

慢性期病床は、日本は圧倒的に多い。米国、英国は極めて少ない。

精神科入院患者数(在院患者数ではない)は、日本は少なく、米国は日本の2.6倍である。英国は日本の1.5倍である。

平均在院日数は、急性期病棟では、日本は約2ヶ月、米国はわずかに7.2日、英国は約1ヶ月である。

●ナーシングホーム

日本は人口10万人当たり 12。米国は321と圧倒的に多い。英国も71と多い。慢性患者は、日本では精神科病院でケアされているが、米国、英国ではナーシングホームで多くがケアされている。

●受刑者

人口10万人当たりの受刑者は日本45に対して米国666で日本の15倍である。英国は146で日本の3倍である。

米国では受刑者のうち精神障害者は135人。精神医療で対応されず司法で対応されている人がとても多い。

英国の受刑者は出所後3週間以内に12人に1人が再犯、1年以内に半数近くが再犯している。この数字から英国では受刑者の中に発育遅滞や精神障害者が相当数含まれていると推測される。

●ホームレス

人口10万人当たり、日本5人に対して、米国177人で34倍。英国381人で73倍。精神障害者が多く含まれている。

●外来通院以外は社会参加せずニート状態にある人(家族だけで支えている慢性の精神障害者)

日本は人口10万人当たり約320人ととても多い。米国や英国では、調査されていないが、極めて少ないと推測される。